



研究6-1・6-2(追加)

放課後児童クラブにおける事故・
災害マニュアルに関する
インタビュー調査

1. 《施設の背景》

サブカテゴリ	説明・コード
1 - 1 施設の運営形態	施設の設置・運営主体、隣接・併設施設に関する回答 ・ 家族経営的な運営 (L-5) ・ 民間運営でやっている (N-24) ・ 運営は保護者会が多い (N-55) ・ 公立の児童クラブ (O-6) ・ 学校に併設されている (O-18) ・ 2階と3階で2つの児童クラブを運営している (R-6)
1 - 2 地域の特性	地域の人口や児童クラブの利用者、地域住民やハザード・リスクに関する回答 ・ 中心部にあるので共働きや変速時間勤務の方にニーズがある (L-4) ・ 地震は比較的少ないので、周りの意識も低い方だと思う (N-14) ・ 隣の民家とのやり取り、挨拶などは意識してやっていく必要がある (N-18) ・ 車の送迎があるので、路上駐車していると周りに迷惑がかかる (N-20) ・ 周りの理解が無いと、学童クラブは成り立たない (N-21) ・ 後から建った(近くの)建物に暮らしている人から苦情の連絡があった (N-30) ・ (習い事)教室が建物に入っているの、駐車場を利用する人も多い (M-9) ・ 学校に併設されている (O-18) ・ 車社会なので、駐車場問題で建設が出来ないことが多い (P-35) ・ 体育館が隣にあるけれど、この橋も危ないと言われた (P-58) ・ ここの児童クラブは商店街の中にある (R-8)
1 - 3 子どもの受け入れ状況	利用児童の学年や年齢、保育の必要性、待機児童の状況に関する回答
1 - 4 施設の老朽化	施設の建築年数、設備の不足や修繕の状況に関する回答 ・ 建物は私の実家で誰も使わなくなったので改修している (L-3) ・ 築35年なので、地震の時は潰れてしまう【心配がある】 (P-57) ・ 地震がとか火事が起こっても、確実に安全ですとは言いきれない (P-64)

2. 《マニュアルの作成状況》

サブカテゴリ	説明・コード
2-1 役所がマニュアルを提供	都道府県や市区町村によって作成されたマニュアルに関する回答 ・市の学童保育連絡協議会が作成したものを、うちの状況に書き換えいる (N-2) ・市役所で作成していて、市内の児童クラブに配布されている (O-1)
2-2 児童クラブでマニュアルを作成	児童クラブにて作成したマニュアルに関する回答 ・放課後児童クラブ運営指針や児童健全育成財団のマニュアルを参考に作っている (L-1) ・マニュアルは作っている (M-1) ・自分達で作成したのを活用している (N-1) ・【インフルエンザ罹患児が20%を超えた場合は閉所】は独自で決めた (P-23) ・去年、一昨年位から市より避難訓練をクラブ内のマニュアルできるように指示が出ている (Q-1) ・マニュアルを作成している (R-1)
包括的な内容になっている	※「2-4 あらゆる事態に備える」に統合
2-3 マニュアルがない部分もある	マニュアルを作成途中、または未作成の項目に関する回答 ・児童クラブに特化したマニュアルがあるとよいと思う (L-13) ・一からマニュアルを作るのは難しい (L-14) ・引っ越してきたばかりで、まだ【災害が起きた場合】が出来ていない (N-13) ・不審者に対応し切れるのか慢性的に抱えている悩み (P-67) ・連絡先もしくは対応の方法、特に無いかな (Q-21) ・事故や災害が起きたときに全てをカバーできるものではない (R-2) ・本当に起きた場合っていうのは、想像出来ないことが起こるので、そこをどう対応するか (N-49)
2-4 あらゆる事態に備える	マニュアルにて定められた複数の事項に関する回答 ・感染症、虐待への対応 (M-9) ・緊急時の連絡体制があるのと、避難場所の記載、あとは、この災害起きた時の児童の引き渡しですとか、保護者の連絡体制の整備っていう所 (N-5) ・事故対応や災害についても書かれている (O-2) ・怪我の対応や不審者の対応等も細かく書かれています (O-4)
防犯をマニュアル化するのは難しい	※「2-3 マニュアルがない部分もある」に統合
非日常を想像するのは難しい	※「2-3 マニュアルがない部分もある」に統合

3. 《マニュアルの活用状況》

サブカテゴリ	説明・コード
3-1 マニュアルを活用する	マニュアルを活用していることに関する回答 ・それぞれが研修会で勉強したり、放課後児童支援員の資格研修講師のときに活用している (L-6) ・緊急時に対応できるように職員会議や市で開催している研修のときに使用している (O-8)
3-2 経験を重視する	マニュアルよりも、支援員の経験や即時の判断によって対応することに関する回答
3-3 緊急時に使えるようにしている	緊急時に即座にマニュアルを活用できるようにする工夫についての回答 ・ファイルに綴じて、みんなが見られるようにしている (M-2) ・子どもの安全に関して判断に迷うような場面で使用している (O-5)
3-4 職員間で共通認識するために使う	職員間で共通認識するための手段、例えば読む、渡す、確認するなどに関する回答 ・指導員が1人ずつ持ち、指導員間ミーティング等では確認を行なっている (N-9) ・職員全員でみるようにはしている (O-3) ・正規支援員は勿論、パート、学生とかが入って来た時に、頭に入れておいてねということで、支援員の間ミーティング等で使用する (P-27) ・月に1回、クラブ内で実施する勉強会で、確認することがある (Q-8) ・年度初めの会議で内容を確認し、新人職員の研修の教材として使用する (R-10)
3-5 普段は使わない	マニュアルを活用していない、または不定期的に活用することに関する回答 ・会議のときに読み合わせるということはない (L-7) ・マニュアルを積極的に活用しているわけではないため、教材にしてこれから勉強をしていきたいと思う (L-12) ・今まで事故を起こしたり、災害にあったこともないので、特別に意識して活用しているわけではないけれど、マニュアルは備えている (M-6)
使うときだけ取り出す	※「3-5 普段は使わない」に統合

4. 《マニュアルの使用場面》

サブカテゴリ	説明・コード
4-1 避難訓練でマニュアルを用いる	地震や火災、水害、雪害、原子力避難訓練において活用することに関する回答 ・訓練のときに、うちの建物だったら、ここから逃げられるとか使える (N-12) ・避難訓練で地震の場合、火災訓練の場合、それぞれの項目に応じて用いる (N-34) ・年に3回以上、火事の際の対応を訓練している (P-17) ・避難訓練とかで用いる (Q-2)
4-2 防犯対策でマニュアルを用いる	不審者対策の訓練において活用することに関する回答 ・不審者への対応の部分 (N-8) ・女性職員が多いので、不審者の侵入という点でも気をつけています (R-9)
原子力避難訓練でマニュアルを用いる	※「4-1 避難訓練でマニュアルを用いる」に統合
4-3 天災でマニュアルを用いる	訓練ではなく、実際の災害時の対応において活用することに関する回答 ・地震、火災、津波時など災害事故等への対処方法を細かく記載している (N-6) ・落雷、あとは台風への対応が多い (N-7)
津波や水害に備える	※「4-3 天災でマニュアルを用いる」に統合
判断の指標に用いる	※「4-4 怪我や病気の対応で高頻度に活用する」に統合
4-4 怪我や病気の対応で高頻度に活用する	事故や怪我、感染症等の病気への対応において活用することに関する回答 ・子どもの安全安心に関わる部分はどちらかと言えば多い (L-9) ・怪我の対応 (P-16) ・一番良く使うのは感染症のもの (P-19) ・アレルギーは生活管理指導表を4月に支援員同士で確認する (P-50) ・日常的に具合が悪くなった子、怪我をした子を運ぶ病院の確認 (Q-3) ・補助の先生では、パニックになってしまうことがあるから、【怪我や事故のときに】的確に動く方法 (Q-6)

5. 《マニュアルがあることの効果》

サブカテゴリ	説明・コード
5-1 対応がスムーズになる	支援員の対応や判断が円滑になることに関する回答 ・何かあったときの指針になる (L-17) ・クラブ内で対応が難しいことがあっても、直ぐに関係機関に連絡ができる (M-8) ・指導員間の対応の共有 (N-32) ・職員が統一した対応をとるための基準になっている (O-9) ・マニュアルを頭に入れておくことで、対応が出来やすくなる。 (P-49) ・職員の共通行動に繋がるから安心出来る (Q-9) ・不測の事態が発生した際に、どのように行動すればよいのかが明確になる (R-11)
判断しやすくなる	※「5-1 対応がスムーズになる」に統合

5-2 マニュアルを作る ことで意識付けに なる	支援員の学習機会や訓練機会、意識を高める機会になることに関する回答 ・ 援助技術を高める (L-18) ・ 全体で共有することによって、緊張感と安心感という所で効果がある (N-10) ・ 前もって準備したり、対応を意識したりするため、未然に防げる (P-11) ・ 支援員もインフルエンザの流行状況とかをチェックするように意識し、自分達で守らなきゃなっていう意識が高められる (P-30)
-----------------------------------	---

6. 《マニュアル作成でポイントとなること》

サブカテゴリ	説明・コード
6-1 行動レベルの具体的な内容にする	具体的、実務的内容を詳細に定めることに関する回答 ・ 誰が見ても同じ対応ができるようにすることが大事 (N-15) ・ 施設に応じた対応っていうのも、考えないといけない (N-47)
6-2 わかりやすく示す	図式化したり、最低限必要な事項を貼り出したりすることに関する回答 ・ 初期対応が一番大切なので、クラブの住所、電話番号、110番などの緊急連絡先を貼り出している (N-45) ・ 全体的に網羅したマニュアルと初期対応があってよい (N-50)
6-3 専門的知見を取り入れる	スーパーバイザーや他の専門家の意見を取り入れることに関する回答
緩やかな基準となる内容にする	※「6-2 わかりやすく示す」に統合
6-4 個の考えで変わってしまう	個々の判断に任せられ、対応が変化することに関する回答

7. 《マニュアル見直しの状況》

サブカテゴリ	説明・コード
7-1 マニュアルを見直す	マニュアルを定期的、または都度、見直し加筆修正することに関する回答 ・ 病院の連絡先とか載せているので、そこに変更とかあった場合は修正する (N-28) ・ 【感染症や災害の】度に修正は加えてはいるが、修正するときは保護者と確認している (P-39) ・ 頻回ではないものの、何が新たに必要なのか考えるようにしている (R-15)
7-2 マニュアルの修正 までは行わない	マニュアルの見直しを行っていないことに関する回答 ・ 必要だと思うが、【人員が限られている】形態の児童クラブでは、そこまで手が回らないため、既に出版されているものを活用している (L-16) ・ 手本となるものもないし、それを作るための時間もないのでマニュアルを修正したりするのは現実的に難しい (M-11) ・ 現状のマニュアルで十分であり、市内で統一したものを使用しているため、こちらの判断だけで変更したりするのは難しい (O-13) ・ 現状のマニュアルで、とりあえず対応は出来ているため修正は無い (Q-14)

8. 《連絡・協力体制》

サブカテゴリ	説明・コード
8-1 役所からの指示を仰ぐ	役所からの指示や警報等の情報に関する回答
情報が流れてくる	※「8-1 役所からの指示を仰ぐ」に統合
関係機関と連絡を取る	※「8-4 関係機関と連携する」に統合
8-2 連絡体制と連絡系統	緊急時の連絡体制や連絡先に関する回答 ・子どもが怪我をしたときの通院先や市役所の担当課とか主に関係機関の連絡先をきさいしたもの（M-3） ・病院や警察、消防など関係機関の連絡先が掲載されている（M-7） ・関係機関の連絡網を整備しているおり、何かあった際には便利（M-13） ・緊急時の連絡体制がある（N-3） ・連絡体制表、【緊急の事態が】起きた時の対応になる（Q-15） ・指導員が携帯で連絡を取り合う（Q-17）
8-3 会議で意見交換する	連絡会議等における他の児童クラブとの意見交換に関する回答
関連機関と協働する	※「8-4 関係機関と連携する」に統合
8-4 関係機関と連携する	他の児童クラブや他の機関との報告、連絡、相談に関する回答 ・市の担当者に相談することもある（O-7） ・警察官の巡回みたいなのがあれば不審者対策とか周りへの防犯意識のことも含め、私達としてもオファーはしやすい（P-60） ・緊急時に保護者や関係機関と連携がとれるような工夫はしている（R-5） ・一方のクラブで不測の事態が発生した際、連携できるよう工夫している（R-7） ・併設児童クラブ同士の連携という部分で苦慮する場面もあるかと思う（R-16）
8-5 学校との連携が取りにくい	学校との連携において課題となっていることに関する回答 ・発達障害や疑いのある子ども、虐待の可能性のある子どもについて、保幼小では連携を取りやすいが、学童だと、はじかれてしまう（P-65）
連絡経路を示す	※「8-2 連絡体制と連絡系統」に統合
保護者との連絡ツールがある	※「8-6 保護者に迅速に連絡する」に統合
8-6 保護者へ迅速に連絡する	緊急時における保護者への連絡の必要性や連絡手段に関する回答

9. 《事故を防ぐための工夫》

サブカテゴリ	説明・コード
9-1 日常的に子どもに意識付けをする	子どもの防災・防犯意識を高める取り組みに関する回答 ・【学校の】教材の磁石を持って帰ってくる子が居たので、ペースメーカーの子だけではなく、他の子にも【注意事項を】全体的には伝えた（N-38） ・うがい、手洗い、消毒は自分でやるようにとか、コップも共用じゃなくて1人1人に別々の物があり、子どもへの意識付けのために言うようにしている（P-32） ・インフルエンザのときは6名以上になったら学童閉めるとか、台風の時にはこうだよっていう保護者に配布しているお便りを子ども向けに説明している（P-45） ・低学年になると【東日本大震災について】知らないで、震災の状況とかを動画で見せたかったけれど、お家の方針があるので、お話だけをした（P-46） ・避難訓練では子どもに話をし、この経路でここに逃げますってやっているけれど、その時に子どもが対応出来るか心配（P-55） ・木に登って高い所に登り出したら「降りて」って言う場合もあるし、石を投げ出したら、「投げないで」って言ったりもする（Q-23） ・子どもは怪我をして危険予測したり、転んで手をつくことで身を守ることも育てないといけない（Q-27） ・遊具に小さい子がいたら、「遊具に小さい子がいるから、やめとこう」って言って、中学生が野球していたら、「ボールが届かない範囲で遊ぼう」とか言う（Q-28）
9-2 日頃から気を配る	防災・防犯のために支援員が気を配る対象に関する回答 ・市の中心部にあるので不審者や戸外での交通事故等には気をつけている（L-19） ・子どもの安全についてはいろいろ気を配ったり、子どもたちが過ごしやすいうようにプログラムも充実させたりしている（M-5） ・【アレルギーについて】気を遣っているが、翌日、子ども達の顔を見るまでは安心出来ない（N-42） ・口頭だと1人の支援員にしか伝わらない可能性も多いので、支援員同士で共有をするように、後は文言として残しておけるようにしている（P-52）
9-3 臨機応変に対応する	災害や事故、要配慮児童の受け入れ時の対応に関する回答 ・災害や事故が起こった場合、まず、大事なのは最初の判断（N-44） ・【不測の事態への】対応は正規の2人で、声を掛け合いながら、持っている知識を総動員する（P-33） ・【大雨が続いたときに隣の川が増水して】どうするってなった時に、水害のマニュアルなんて作ってなかったけれど、学校に避難するというのがあったから、臨機応変に対応が出来た（P-43） ・【配慮を要する児童を】受け入れるときには対応方法を考えている（P-54） ・職員に言ってるのは、まず何が起こっても自分は冷静にということと、子供達を落ち着かせること（Q-11）

9 - 4 可能な限り事故への対策をとっている	災害や事故を予防するための対策に関する回答 ・事故が起きないように急な階段に滑り止めをつけたり、子どもがクールダウンできる個室も用意したり、どちらかといえば予防に力を入れている (L-11) ・事故が起らないように修繕は怠らないようにしている (L-20) ・手作りおやつを出すこともあるので、健康調査カードを提示してもらう (N-40) ・施設賠償責任保険、生産物賠償保険とかには入っている (N-43) ・ドアストッパーをつけたり、床を柔らか素材にしたり工夫している (O-15) ・防犯で避難口を用意したり、死角をなくして目が行き届くようにしている (O-16) ・公園に行く場合も、指導員が2人つき、複数で行動する (Q-20)
9 - 5 対応を決めておくことが大切	災害や事故、要配慮児童が利用する際の対応を事前に決める重要性に関する回答 ・周りに管理者がいれば協力を求めたり、指示を求めたりして、個人の判断というよりは複数で対応するようにしています。 (O-10) ・学校がない時、長期休暇にインフルエンザに罹って、学童に登所する際の1日目に保護者記入の治癒証明書を持って来てもらう事にしている (P-25) ・対応出来る所と出来ないところがあるので、重度のアレルギーの子が来た時には、出来る所と出来ない所の説明をしていく (P-53) ・現場で職員がパニックになって間違っ指示を出してしまうと、他の子達まで余計な災害、もしくは事故とかに巻き込まれてしまうのが怖いから1人で判断せず、必ず連絡をして、お互い指示を出し合う対応 (Q-16)
9 - 6 子どもを迎えに行く	災害や事故が起こった後の小学校への送迎に関する回答 ・保護者が急に仕事を抜けられないと暴風警報が出ている中、支援員と19時まで待っているなどのトラブルがあり、町内の学童クラブ統一で、小学校に登校した後に、学校が臨時休業となった場合は学童が迎えに行かないことを決めた (P-21)
9 - 7 保護者に対面で引き渡す	災害や事故が起こったときの保護者への引き渡しに関する回答 ・本当は、保護者にすぐに迎えに来てもらい、病院に行ってもらいたいが、マニュアルに応じて行動しないといけないが、どこまでやるべきか【悩む】 (N-52) ・他の人がお迎えに来る時には基本的に連絡をしてもらっているけれど、迎えに来た祖父母と子ども達の様子を見て判断している (P-36) ・急に歩きで帰るという子は、保護者に確認してから帰すようにしている (P-37) ・東日本大震災のときは、連れて帰ってもらって亡くなった子もいる (P-59)
9 - 8 保護者の責任で子どもが一人で塾へ行く	子どもが放課後児童クラブから塾へ直接行くことに関する回答
9 - 9 クラブの対応を保護者に周知する	保護者に児童クラブの対応を周知する内容や工夫に関する回答 ・保護者総会が年度明けてすぐにあるが、その時に新しい保護者も含めて学童では「こういうマニュアルを持っています」ということを話している (P-18) ・インフルエンザが流行って来たときは必ず通知を出すようにしている (P-20) ・北朝鮮のミサイル問題でもお便りに【行政が出している用紙を】付けてみた (P-44) ・保護者によっては何でインフルエンザ6名だけで閉めるのとか、少なくともとか、台風の時でも仕事あるって思うかもしれないが、そういう時に学童では、子どもの命を守るために、対応を伝える (P-48) ・入所の段階で【頻繁にするので】怪我に関して謝罪しませんが保護者に言う (Q-26) ・保護者向けの頼りに、マニュアルの一部を掲載 (R-4)

10. 《大きな事故を防ぐための構え》

サブカテゴリ	説明・コード
10-1 日常の中で怪我が多い	子どもが日常的に怪我が多いことに関する回答 ・子どもは打撲、捻挫、擦り傷、鼻血など、動いていれば必ず怪我をする (Q-25)
10-2 二次災害を防ぐ	二次災害を防ぐ重要性や工夫に関する回答
10-3 緊急度に応じて病院へ連れて行く	支援員が子どもを病院へ連れて行くことに関する回答 ・前に公園で怪我をしたという連絡が入り、私がその場に行って、その子を連れて病院へ連れて行った (Q-18)
10-4 重大な事象は生じていない	マニュアルに記載がないような災害や事故が生じていないことに関する回答 ・(マニュアルに載っていないことが起こったことは) 起こったことは無い (N-16)
10-5 災害時の備えに不安がある	災害時の施設の設備に対する不安に関する回答 ・トイレは男女兼用で1個しかないの、その点は問題だと思っています。(O-17) ・何かあれば学校に避難して支援を待つ形になるが、食料や保護者との連絡、そこで何日過ごせるか、いろいろな面で苦慮すると思う (O-19)
10-6 定期的に訓練する	定期的な災害、防犯訓練の実施に関する回答 ・避難訓練するとき、ここで遊んでいる子と違う公園に行っている子のパターンの時は支援員がどうするかとか、色んな状況を考える (P-56)
津波を意識して訓練する	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
不審者訓練をする	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
竜巻に備えて訓練をする	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
10-7 研修会で学ぶ機会を設ける	研修機会における防災・防犯対策の力量向上に関する回答 ・何か起こった際の対応方法については、市内の放課後児童クラブの研修会で勉強している (M-4)
10-8 災害時の保護者への子どもの引き渡しも念頭に置く	災害時の保護者への引き渡しを日常的に念頭に置く重要性や工夫に関する回答 ・災害が起きた時の児童の引き渡しとか、保護者の連絡体制を【マニュアルの大項目に設定している】 (N-5)
10-9 保護者とのコミュニケーションを大切にする	保護者との意思疎通の重要性や意思疎通を図るための取り組みに関する回答 ・ペースメーカーをつけた子は電子レンジに近づかないとか、パソコンや携帯電話はどうかとかを私達で調べて、保護者と共有していた (N-36) ・保護者の方にも子どもの持病だったり、細かいケアを一緒に共有して行きたいということで保護者と支援員との意思の疎通っていうことをやっている (P-15) ・アトピーの子がいたときに、プールについて保護者と確認した (P-51)

11. 《職員の状況》

サブカテゴリ	説明・コード
11-1 責任者がいる	不測の事態において最終判断を行う責任者の存在に関する回答 ・事故や災害の状況にもよるが、管理者の私が主に対応している (L-15) ・事故が重大であればあるほど、管理者の指示を仰ぐようにしている (O-11) ・私は施設長をやっているので、判断は、その場で出来る (Q-5) ・イレギュラーな事が起こったときには、他の職員が【責任を負うのは荷が重すぎる】ため、児童クラブが責任を背負う (Q-12) ・管理者が中心となり、職員全員で緊急事態には対応する (R-14)
11-2 状況に応じて人員増員を依頼する	職員の人員増員に関する回答
11-3 専門性が必要な仕事	職員の専門性に関する回答
11-4 人材確保が困難な現状	職員の確保の困難さに関する回答
11-5 キャリアの長い支援員もいる	支援員としてのキャリアの長さに関する回答
11-6 女性だけでは対応が難しい場合がある	女性職員による防災、防犯の限界に関する回答
11-7 働ける人が限られる勤務体制	職員の勤務時間や働ける職員の制約に関する回答 ・職員も多くない職場です (R-12)
11-8 人が入れ替わってしまう	職員や関係機関の人事異動に関する回答 ・支援員体制も変わりやすいところ (P-26)

12. 《学習支援の状況》

サブカテゴリ	説明・コード
12-1 学習への支援状況	児童クラブ内における学習支援に関する回答
12-2 放課後子ども教室の状況	放課後子ども教室の運営や実施状況に関する回答 ・土曜日に、学校の空き教室を借りて、地域の運営委員が子ども教室を開き、児童クラブの子どもも遊びに行っているということを聞いたことはある (Q-29)

13. 《現状と課題》

サブカテゴリ	説明・コード
13-1 マニュアルを作ることが優先されている	マニュアルを活用する重要性やマニュアルを最低限の水準とすることに関する回答 ・マニュアルに頼りすぎるのではなく、子どもたちの安全や権利を守るために、工夫していく点が多いにある (R-13)
13-2 特性のある子どもの増加と対応の難しさ	配慮を要する子どもの理解と支援に関する回答 ・配慮を要する子や非言語コミュニケーションに関する本を読んでいる (L-10) ・アレルギー対応で、エビペの使用などは研修をやるが、もし必要な子が来た場合や医療的ケアが必要な子が来た場合の項目はもっと【マニュアルに】入れないといけないと思っている (N-35) ・特別な対応っていうのは、支援が必要な子に応じて必要 (N-37)
13-3 職員の質の向上と働く意欲への課題	職員の質の確保に務めるうえでの課題に関する回答
13-4 緊急時の備えが難しい	緊急時の物理的、人的な備えの不足に関する回答 ・支援員が2、3人しかいない場合の対応について苦慮している (N-48) ・学校は保健室や養護の先生がおり、対応が出来ると思うが、学童は静養スペースを設けられていない (P-13) ・応急処置とかの指導法は分かっているけど、実際に細かく対応出来ると言ったら、正直不安なところがある (P-14)

14. 《行政や研究者への要望》

サブカテゴリ	説明・コード
14-1 自治体主導で学ぶ機会を確保する必要性	自治体を中心に研修会等の機会を設けることに関する要望
目安になるものがあるとい	※「14-3 対応方法や判断基準をわかりやすく提示」に統合
14-2 必要なマニュアルのひな型を提示	マニュアルのひな型を提示することに関する要望 ・マニュアルを作っても正しいかどうかの判断を私達でしなくてはいけないので、それは大変です。(P-63)
14-3 対応方法や判断基準をわかりやすく提示	マニュアルにおいて具体的な目安や対応方法を提示することに関する要望
14-4 財源と人材確保と提供	処遇改善や人材確保に関する要望 ・支援員の処遇改善や実態を踏まえた運営、配置基準にして欲しい (L-22)
14-5 その他	上記以外の要望 ・施設に応じたマニュアルが必要なので、行政には視察に来てもらいたい (N-53) ・現場がどういう場所で、どういう保育を行っているかを行政に把握してもらって、対応をしてもらいたい (N-54) ・マニュアル等も該当するが、病院等の関係機関との連携するときの手助け (P-62) ・子どもの安全を守る場所について、行政と相談しながらやっていきたい (P-64) ・マニュアルを作るにあたり、相談出来る場所があれば良い (P-68) ・怪我の過失の割合など、責任の所在に関して一定の方針がほしい (Q-22)

6 (追加) — 1. 研究目的

本研究では、『放課後児童クラブの事故・災害対応等マニュアルに関する調査研究』の「研究6 放課後児童クラブにおける事故・災害マニュアルに関するインタビュー調査」において報告した研究結果に加え、未分析であった7施設の放課後児童クラブのデータを分析した。「研究6」の研究結果の移転性 (transferability) を検討するとともに、7施設の事故・災害マニュアルの活用状況を明らかにすることを目的とした。研究結果の移転性 (transferability) とは、量的研究の外的妥当性に関する概念であり、特定の研究結果が他の集団においても読み取れるかどうかに関する基準である。

6 (追加) — 2. 研究方法

1. 対象および調査方法

調査対象は、研究6にて結果を集計した11施設以外の7施設の職員であった。7施設は全て放課後児童クラブである。調査対象者は、各施設1名であった。7施設は、いずれも四国地方、または九州地方にて活動していた。

2. 調査項目

インタビュー項目は、研究6と同様に、以下の12項目であり、最後の項目は状況に応じて質問者が追加した。つまり、質問項目は、1) 放課後児童クラブのマニュアルは活用されていますか、2) マニュアルはどのような項目を主に設定していますか、3) マニュアルはどのようなときに使用していますか、4) マニュアルを使用することによって、どのような効果がありますか、5) マニュアルの中に含まれていないことが、活動中に

起こったときには、どのように対応していますか、6) マニュアルは、加筆、修正していますか、7) マニュアルがあつて、よかったことは何ですか、8) マニュアルは、どのような項目をよく使用していますか、9) 災害事故の場面が起こった場合、対応に苦慮している、苦慮しそうなことは何ですか、10) どのような項目がマニュアルにあるといいですか、11) 放課後児童クラブに関して、行政機関、研究者に望むことは何ですか、12) 放課後児童クラブと子ども教室が一体型の場合、連携で工夫していることは何ですか、であった。

3. 倫理的配慮

本研究は、研究6と同様に、研究実施前に花園大学の倫理委員会の承認を得た。調査対象者には、研究概要とインタビュー内容、プライバシーの保護、自由意思による参加、同意の撤回等について、文書、および口頭で説明し、書面にて同意を得た。

4. 分析

インタビューの分析は、研究6のサブカテゴリ、カテゴリについて語られたテキストデータをコードとした。次に、コードを研究6のサブカテゴリ、カテゴリに分類した。ただし、追加調査の対象施設は7施設であり、研究6の11施設よりも少なく、テキストデータも少量であった。よって、研究6にて分類された全てのサブカテゴリを満たすとは限らなかった。また、研究6のサブカテゴリ中のコードを読み返す過程で、類似のサブカテゴリが見つかった。そのため、研究6のサブカテゴリに分類する際、サブカテゴリの統合も行った。カテゴリ、サブカテゴリへの分類結果

は、検討委員会のメンバーによっても検証され、結果の信用性確保に努めた。

6（追加）－3．結果

追加分の7施設のインタビューより得られたテキストデータを研究6の14カテゴリに分類できた。

以下では、研究6と同様に、カテゴリを《 》、サブカテゴリを〈 〉で示し、マニュアルの活用状況等について結果をまとめる。なお、追加分では、サブカテゴリの最初の行に定義を記した。さらに、各コードの【 】には、筆者がコードの前後の文脈から判断し、テキストを加筆、修正した。

1. 《施設の背景》

施設の背景では、〈施設の運営形態〉〈地域特性〉〈施設の老朽化〉の3つのサブカテゴリにコードを分類した。追加調査では、〈子どもの受け入れ状況〉に関するコードは見あたらなかった。

研究6とは異なり、〈施設の運営形態〉では、民設民営の施設が多く、公設公営は少なかった。〈地域特性〉では、市区町村の中心部に位置し、交通量の多い施設が複数あった。〈施設の老朽化〉が目立つ施設もあり、改修をしながら運営をしていた。

サブカテゴリ	説明・コード
1-1 施設の運営形態	施設の設置・運営主体、隣接・併設施設に関する回答 ・家族経営的な運営 (L-5) ・民間運営でやっている (N-24) ・運営は保護者が多い (N-55) ・公立の児童クラブ (O-6) ・学校に併設されている (O-18) ・2階と3階で2つの児童クラブを運営している (R-6)
1-2 地域特性	地域の人口や児童クラブの利用者、地域住民やハザード・リスクに関する回答 ・中心部にあるので共働きの労働者の方が多い (L-4) ・地震は比較的に少ないので、周りの意識も低い方だと思う (N-14) ・隣の民家とのやり取り、挨拶などは意識してやっていく必要がある (N-18) ・車の送迎があるので、路上駐車していると周りに迷惑がかかる (N-20) ・周りの理解が無いと、児童クラブは成り立たない (N-21) ・後から建った（近くの）建物に暮らしている人から苦情の連絡があった (N-30) ・（習い事）教室が建物に入っているの、駐車場を利用する人も多い (M-9) ・学校に併設されている (O-18) ・車社会なので、駐車場問題で建設が出来ないことが多い (P-35) ・体育館が隣にあるけれど、この橋も危ないと言われた (P-58) ・この児童クラブは商店街の中にある (R-8)
1-3 子どもの受け入れ状況	利用児童の学年や年齢、保育の必要性、待機児童の状況に関する回答
1-4 施設の老朽化	施設の建築年数、設備の不足や修繕の状況に関する回答 ・建物は私の実家で誰も使わなくなったので改修している (L-3) ・築35年なので、地震の時は潰れてしまう【心配がある】 (P-57) ・地震がとか火事が起こっても、確実に安全ですとは言えない (P-64)

2. 《マニュアルの作成状況》

〈役所がマニュアルを提供〉〈児童クラブでマニュアルを作成〉〈マニュアルがない部分もある

〉〈あらゆる事態に備える〉の4つのサブカテゴリにコードを分類した。研究6にて分類された上記以外のサブカテゴリについては、他のサブカテゴリに統合した。

研究6と同様に、運営指針や児童健全育成財団、役所が作成したマニュアルを見本としながら、各自の施設の状況に合うように加筆、修正を行い作成していた。緊急時の避難や不審者対応、事故や怪我、感染症、虐待への対応など、〈あらゆる事態に備える〉施設がある一方、様々な状況への対応に不安がある施設、施設の移転により修正が必要な施設も存在していた。

サブカテゴリ	説明・コード
2-1 役所がマニュアルを提供	都道府県や市区町村によって作成されたマニュアルに関する回答 ・市の学童保育連絡協議会が作成したものを、うちの状況に書き換えている (N-2) ・市役所で作成していて、市内の児童クラブに配布されている (O-1)
2-2 児童クラブでマニュアルを作成	児童クラブにて作成したマニュアルに関する回答 ・放課後児童クラブ運営指針や児童健全育成財団のマニュアルを参考に作っている (L-1) ・マニュアルは作っている (M-1) ・自分達で作成したのを活用している (N-1) ・【インフルエンザ罹患率が20%を超えた場合は閉所】は独自で決めた (P-23) ・去年、一昨年から市より避難訓練をクラブ内のマニュアルできるように指示が出ている (Q-1) ・マニュアルを作成している (R-1)
包括的な内容になっている	※「2-4 あらゆる事態に備える」に統合
2-3 マニュアルがない部分もある	マニュアルを作成途中、または未作成の項目に関する回答 ・児童クラブに特化したマニュアルがあるとよいと思う (L-13) ・一からマニュアルを作るのは難しい (L-14) ・引っ越してきたばかりで、まだ【災害が起きた場合】が出来ていない (N-13) ・不審者に対応し切れるのか慢性的に抱えている悩み (P-67) ・連絡先もしくは対応の方法、特に無いかな (Q-21) ・事故や災害が起きたときに全てをカバーできるものではない (R-2) ・本当に起きた場合というのは、想像出来ないことが起こるので、そこをどう対応するか (N-49)
2-4 あらゆる事態に備える	マニュアルにて定められた複数の事項に関する回答 ・感染症、虐待への対応 (M-9) ・緊急時の連絡体制があるのと、避難場所の記載、あとは、この災害起きた時の児童の引き渡しですとか、保護者の連絡体制の整備について (N-5) ・事故対応や災害についても書かれている (O-2) ・怪我の対応や不審者の対応等も細かく書かれています (O-4)
防犯をマニュアル化するの難しい	※「2-3 マニュアルがない部分もある」に統合
非日常を想像するのは難しい	※「2-3 マニュアルがない部分もある」に統合

3. 《マニュアルの活用状況》

〈マニュアルを活用する〉〈緊急時に使えるようにしている〉〈職員間で共通認識するために使う〉〈普段は使わない〉の4つのサブカテゴリにコードを分類した。

活用状況については、〈職員間で共通認識するために使う〉ことが、7施設中5施設において見られた。〈普段は使わない〉においても、今後教材にする抱負が語られるなど、活用への意向が示された。

サブカテゴリ	説明・コード
3-1 マニュアルを活用する	マニュアルを活用していることに関する回答 ・それぞれが研修会で勉強したり、放課後児童支援員の資格研修講師のときに活用している (L-6) ・緊急時に対応できるように職員会議や市で開催している研修のときに使用している (O-8)
3-2 経験を重視する	マニュアルよりも、支援員の経験や即時の判断によって対応することに関する回答
3-3 緊急時に使えるようにしている	緊急時に即座にマニュアルを活用できるようにする工夫についての回答 ・ファイルに綴じて、みんなが見られるようにしている (M-2) ・子どもの安全に関して判断に迷うような場面で使用している (O-5)
3-4 職員間で共通認識するために使う	職員間で共通認識するための手段、例えば読む、渡す、確認するなどに関する回答 ・指導員が1人ずつ持ち、指導員間ミーティング等では確認を行なっている (N-9) ・職員全員でみるようにはしている (O-3) ・正規支援員は勿論、パート、学生とかが入って来た時に、頭に入れておいてねということで、支援員の間ミーティング等で使用する (P-27) ・月に1回、クラブ内で実施する勉強会で、確認することがある (Q-8) ・年度初めの会議で内容を確認し、新人職員の研修の教材として使用する (R-10)
3-5 普段は使わない	マニュアルを活用していない、または不定期的に活用することに関する回答 ・会議のときに読み合わせるということはない (L-7) ・マニュアルを積極的に活用しているわけではないため、教材にしてこれから勉強をしていきたいと思う (L-12) ・今まで事故を起こしたり、災害にあったこともないので、特別に意識して活用しているわけではないけれど、マニュアルは備えている (M-6)
使うときだけ取り出す	※「3-5 普段は使わない」に統合

4. 《マニュアルの使用場面》

＜避難訓練でマニュアルを用いる＞＜防犯対策でマニュアルを用いる＞＜天災でマニュアルを用いる＞＜怪我や病気の対応で高頻度に活用する＞の4つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、災害避難訓練や防犯対策において使用する施設が多かった。マニュアルに従い、各自の児童クラブの状況に応じて訓練を実施していた。四国地方、九州地方の施設であったため、台風への対応においてマニュアルを使用することも語られた。次に、怪我や病気の対応で活用する施設が多かった。

サブカテゴリ	説明・コード
4-1 避難訓練でマニュアルを用いる	地震や火災、水害、雪害、原子力避難訓練において活用することに関する回答 ・訓練のときに、うちの建物だったら、ここから逃げられるとか使える (N-12) ・避難訓練で地震の場合、火災訓練の場合、それぞれの項目に応じて用いる (N-34) ・年に3回以上、火事などの対応を訓練している (P-17) ・避難訓練とかで用いる (Q-2)
4-2 防犯対策でマニュアルを用いる	不審者対策の訓練において活用することに関する回答 ・不審者への対応の部分 (N-8) ・女性職員が多いので、不審者の侵入という点でも気をつけています (R-9)
原子力避難訓練でマニュアルを用いる	※「4-1 避難訓練でマニュアルを用いる」に統合
4-3 天災でマニュアルを用いる	訓練ではなく、実際の災害時の対応において活用することに関する回答 ・地震、火災、津波時など災害事故等への対処方法を細かく記載している (N-6) ・落雷、あとは台風への対応が多い (N-7)
津波や水害に備える	※「4-3 天災でマニュアルを用いる」に統合
判断の指標に用いる	※「4-4 怪我や病気の対応で高頻度に活用する」に統合
4-4 怪我や病気の対応で高頻度に活用する	事故や怪我、感染症等の病気への対応において活用することに関する回答 ・子どもの安全安心に関わる部分はどちらかと言えば多い (L-9) ・怪我の対応 (P-16) ・一番良く使うのは感染症のもの (P-19) ・アレルギーは生活管理指導表を4月に支援員同士で確認する (P-50) ・日常的に具合が悪くなった子、怪我をした子を運ぶ病院の確認 (Q-3) ・補助の先生では、パニックになってしまうことがあるから、【怪我や事故のときに】的確に動く方法 (Q-6)

5. 《マニュアルがあることの効果》

＜対応がスムーズになる＞＜マニュアルを作ることで意識付けになる＞の2つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、マニュアルが災害や事故のときの判断や対応の裏付けとなっていた。職員間で共通した行動につながり、複数の職員が支援にあたる児童クラブにおいて、より円滑な対応につながる事が示唆された。また、マニュアルを作成することで、災害や事故を想定した準備や情報収集など予防行動のきっかけとなっていた。

サブカテゴリ	説明・コード
5-1 対応がスムーズになる	支援員の対応や判断が円滑になることに関する回答 ・何かあったときの指針になる (L-17) ・クラブ内で対応が難しいことがあっても、直ぐに関係機関に連絡ができる (M-8) ・指導員間の対応の共有 (N-32) ・職員が統一した対応をとるための基準になっている (O-9) ・マニュアルを頭に入れておくことで、対応が出来るようになる。(P-49) ・職員の共通行動に繋がるから安心出来る (Q-9) ・不測の事態が発生した際に、どのように行動すればよいのかが明確になる (R-11)
判断しやすくなる	※「5-1 対応がスムーズになる」に統合
5-2 マニュアルを作ることで意識付けになる	支援員の学習機会や訓練機会、意識を高める機会になることに関する回答 ・援助技術を高める (L-18) ・全体で共有することによって、緊張感と安心感という所で効果がある (N-10) ・前もって準備したり、対応を意識したりするため、未然に防げる (P-11) ・支援員もインフルエンザの流行状況とかをチェックするように意識し、自分達で守らなきゃならない意識が高められる (P-30)

6. 《マニュアル作成でポイントとなること》

＜行動レベルの具体的な内容にする＞＜わかりやすく示す＞の2つのサブカテゴリに分類した。

研究6と同様に、各自の施設の状況に応じた詳細なマニュアルの他に、災害や事故発生時に全ての職員が共通して対応できるように、必要な情報を精選した簡略マニュアルを作成する必要性が語られた。

サブカテゴリ	説明・コード
6-1 行動レベルの具体的な内容にする	具体的、実務的内容を詳細に定めることに関する回答 ・誰が見ても同じ対応ができるようにすることが大事 (N-15) ・施設に応じた対応っていうのも、考えないといけない (N-47)
6-2 わかりやすく示す	図式化したり、最低限必要な事項を貼り出したりすることに関する回答 ・初期対応が一番大切なので、クラブの住所、電話番号、110番などの緊急連絡先を貼り出している (N-45) ・全体的に網羅したマニュアルと初期対応があつてよい (N-50)
6-3 専門的知見を取り入れる	スーパーバイザーや他の専門家の意見を取り入れることに関する回答
緩やかな基準となる内容にする	※「6-2 わかりやすく示す」に統合
6-4 個の考えで変わってしまう	個々の判断に任せ、対応が変化することに関する回答

7. 《マニュアル見直しの状況》

＜マニュアルを見直す＞＜マニュアルの修正までは行わない＞の2つのサブカテゴリに分類した。

研究6と同様に、修正の必要性が出た場合に見

直しをする施設があった。しかしながら、人材が限られていること、市内で統一のマニュアルを使用していること、現状で対応できていることから、修正を加えていない施設もあった。

サブカテゴリ	説明・コード
7-1 マニュアルを見直す	マニュアルを定期的、または都度、見直し加筆修正に関する回答 ・病院の連絡先とか載せているので、そこに変更とかあった場合は修正する (N-28) ・【感染症や災害の】度に修正は加えてはいるが、修正するときは保護者と確認している (P-39) ・顔回ではないものの、何が新たに必要なのか考えるようにしている (R-15)
7-2 マニュアルの修正までは行わない	マニュアルの見直しを行っていないことに関する回答 ・必要だと思うが、【人員が限られている】形態の児童クラブでは、そこまで手が回らないため、既に出版されているものを活用している (L-16) ・手本となるものもないし、それを作るための時間もないのでマニュアルを修正したりするのは現実的に難しい (M-11) ・現状のマニュアルで十分であり、市内で統一したものを使用しているので、こちらの判断だけで変更したりするのは難しい (O-13) ・現状のマニュアルで、とりあえず対応は出来ているため修正は無い (Q-14)

8. 《連絡・協力体制》

＜役所からの指示を仰ぐ＞＜連絡体制と連絡系統＞＜関係機関と連携する＞＜学校との連携が取りにくい＞の4つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、連絡体制や関係機関との連携先としては、市役所の担当部署、病院、消防、警察が主にあがっていた。一方、研究6とは異なり、追加調査では、小学校との連携に関する回答は少なく、配慮を要する児童について小学校との連携が課題となっている事例があった。

サブカテゴリ	説明・コード
8-1 役所からの指示を仰ぐ	役所からの指示や警報等の情報に関する回答
情報が流れてくる	※「8-1 役所からの指示を仰ぐ」に統合
関係機関と連絡を取る	※「8-4 関係機関と連携する」に統合
8-2 連絡体制と連絡系統	緊急時の連絡体制や連絡先に関する回答 ・子どもが怪我をしたときの通院先や市役所の担当課とか主に関係機関の連絡先をききたいもの (M-3) ・病院や警察、消防など関係機関の連絡先が掲載されている (M-7) ・関係機関の連絡網を整備しているおり、何かあった際には便利 (M-13) ・緊急時の連絡体制がある (N-3) ・連絡体制表、【緊急の事態が】起きた時の対応になる (Q-15) ・指導員が携帯で連絡を取り合う (Q-17)
8-3 会議で意見交換する	連絡会議等における他の児童クラブとの意見交換に関する回答
関係機関と協働する	※「8-4 関係機関と連携する」に統合
8-4 関係機関と連携する	他の児童クラブや他の機関との報告、連絡、相談に関する回答 ・市の担当者に相談することもある (O-7) ・警察官の巡回みたいなのがあれば不審者対策とか周りへの防犯意識のことも含め、私達としてもオファーはしやすい (P-60) ・緊急時に保護者や関係機関と連携がとれるような工夫はしている (R-5) ・一方のクラブで不測の事態が発生した際、連携できるよう工夫している (R-7) ・併設児童クラブ同士の連携という部分で苦慮する場面もあるかと思う (R-16)
8-5 学校との連携が取りにくい	学校との連携において課題となっていることに関する回答 ・発達障害や疑いのある子ども、虐待の可能性のある子どもについて、保幼小では連携を取りやすいが、学童だと、はじかれてしまう (P-65)
連絡経路を示す	※「8-2 連絡体制と連絡系統」に統合
保護者との連絡ツールがある	※「8-6 保護者に迅速に連絡する」に統合
8-6 保護者へ迅速に連絡する	緊急時における保護者への連絡の必要性や連絡手段に関する回答

9. 《事故を防ぐための工夫》

＜日常的に子どもに意識付けをする＞＜日頃から気を配る＞＜臨機応変に対応する＞＜可能な限り事故への対策をとっている＞＜対応を決めておくことが大切＞＜子どもを迎えに行く＞＜保護者に対面で引き渡す＞＜クラブの対応を保護者に周知する＞の8つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、日頃から事故が生じないように対策をとっている施設が多くあった。とくに、＜日常的に子どもに意識付けをする＞ために、子どもの衛生行動を習慣付けること以外にも、遊びの際の状況判断を育てる取り組みも見られた。

サブカテゴリ	説明・コード
9-1 日常的に子どもに意識付けをする	子どもの防災・防犯意識を高める取り組みに関する回答 ・【学校の】教材の磁石を持って帰ってくる子が居たので、ベースメーカーの子だけではなく、他の子にも【注意事項】全体的には伝えた (N-38) ・うがい、手洗い、消毒は自分でやるようにとか、コップも共用じゃなくて1人1人に別々の物があり、子どもへの意識付けのために言うようにしている (P-32) ・インフルエンザのときは6名以上になったら学室閉めるとか、台風の時にはこうだよっていう保護者に配布しているお便りを子ども向けに説明している (P-45) ・低学年になると【東日本大震災について】知らないで、震災の状況とかを動画で見たかったけれど、お家の方針があるので、お話だけをした (P-46) ・避難訓練では子どもに話をして、この経路でここに逃げますってやっているけれど、その時に子どもが対応出来るか心配 (P-55) ・木に登って高い所に登り出したら「降りて」って言う場合もあるし、石を投げ出したら「投げないで」って言ったりもする (Q-23) ・子どもは怪我をして危険予測したり、転んで手をつくことで身を守ることも育てないといけない (Q-27) ・遊具に小さい子がいたら、「遊具に小さい子がいるから、やめとこう」って言って、中学生が野球していたら、「ボールが届かない範囲で遊ぼう」とか言う (Q-28)
9-2 日頃から気を配る	防災・防犯のために支援員が気を配る対象に関する回答 ・市の中心部にあるので不審者や戸外での交通事故等には気を付けている (L-19) ・子どもの安全についてはいろいろな気を配ったり、子どもたちが過ごしやすいようにプログラムも充実させている (M-5) ・【アレルギーについて】気を遣っているが、翌日、子ども達の顔を見るまでは安心出来ない (N-42) ・口頭だと1人の支援員にしか伝わらない可能性も多いので、支援員同士で共有するように、後は文言として残しておけるようにしている (P-52)
9-3 臨機応変に対応する	災害や事故、要配慮児童の受け入れ時の対応に関する回答 ・災害や事故が起こった場合、まず、大事なのは最初の判断 (N-44) ・【不測の事態への】対応は正規の2人で、声を掛け合いながら、持っている知識を総動員する (P-33) ・【大雨が続いたときに隣の川が増水して】どうするってなった時に、水害のマニュアルなんて作ってなかったけれど、学校に避難するというのがあったから、臨機応変に対応が出来た (P-43) ・【配慮を要する児童を】受け入れるときには対応方法を考えている (P-54) ・職員に言ってるのは、まず何が起ころうとも自分は冷静にということと、子供達を落ち着かせること (Q-11)
9-4 可能な限り事故への対策をとっている	災害や事故を予防するための対策に関する回答 ・事故が起きないように急な階段に滑り止めをつけたり、子どもがクールダウンできる個室も用意したり、どちらかといえば予防に力を入れている (L-11) ・事故が起これないようには修繕は怠らないようにしている (L-20) ・手作りおやつを出すこともあるので、健康調査カードを提示してもらって (N-40) ・施設賠償責任保険、生産物賠償保険とかには入っている (N-43) ・ドアストッパーをつけたり、床を柔らかい素材にしたり工夫している (O-15) ・防犯で避難口を用意したり、死角をなくして目が行き届くようにしている (O-16) ・公園に行く場合も、指導員が2人つき、複数で行動する (Q-20)
9-5 対応を決めておくことが大切	災害や事故、要配慮児童が利用する際の対応を事前に決める重要性に関する回答 ・周りに管理者がいれば協力を求めたり、指示を求めたりして、個人の判断というよりは複数で対応するようにしています。 (O-10) ・学校がない時、長期休暇にインフルエンザに罹って、学室に登所する際の1日目に保護者記入の治癒証明書を持って来てもらう事にしている (P-25) ・対応出来ることと出来ないところがあるので、重度のアレルギーの子が来た時には、出来ることと出来ないことの説明をしていく (P-53) ・現場で職員がパニックになって間違った指示を出してしまうと、他の子達まで余計な災害、もしくは事故とかに巻き込まれてしまうのが怖いから1人で判断せず、必ず連絡をして、お互い指示を出し合う対応 (Q-16)
9-6 子どもを迎えに行く	災害や事故が起こった後の小学校への送迎に関する回答 ・保護者が急に仕事を抜けられないと暴風警報が出ている中、支援員と19時まで待っているなどのトラブルがあり、町内の学童クラブ統一で、小学校に登校した後に、学校が臨時休業となった場合は学童が迎えに行かないことを決めた (P-21)
9-7 保護者に対面で引き渡す	災害や事故が起こったときの保護者への引き渡しに関する回答 ・本当は、保護者にすぐ迎えに来てもらい、病院に行ってもらいたいが、マニュアルに応じて行動しないといけないが、どこまでやるべきか【悩む】 (N-52) ・他の人がお迎えに来る時には基本的に連絡をしてもらっているけれど、迎えに来た祖父母と子ども達の様子を見て判断している (P-36) ・急に歩きで帰るという子は、保護者に確認してから帰すようにしている (P-37) ・東日本大震災のときは、連れて帰ってもらって亡くなった子もいる (P-59)
9-8 保護者の責任で子どもが一人で塾へ行く	子どもが放課後児童クラブから塾へ直接行くことに関する回答
9-9 クラブの対応を保護者に周知する	保護者に児童クラブの対応を周知する内容や工夫に関する回答 ・保護者総会が年度明けですぐにあるが、その時に新しい保護者も含めて学童では「こういうマニュアルを持っています」っていうことを話している (P-18) ・インフルエンザが流行って来たときは必ず通知を出すようにしている (P-20) ・北朝鮮のミサイル問題でもお便りに【行政が出している用紙を】付けてみた (P-44) ・保護者によっては何でインフルエンザ6名だけで閉めるのとか、少ないとか、台風の時でも仕事あるって思うかもしれないが、そういう時に学童では、子どもの命を守るために、対応を伝える (P-48) ・入所の段階で【頻繁にするので】怪我に関して謝罪しませんと保護者に言う (Q-26) ・保護者向けの頼りに、マニュアルの一部を掲載 (R-4)

10. 《大きな事故を防ぐための構え》

＜日常の中で怪我が多い＞＜緊急度に応じて病院へ連れて行く＞＜重大な事象は生じていない＞

＜災害時の備えに不安がある＞＜定期的に訓練する＞＜研修会で学ぶ機会を設ける＞＜災害時の保護者への子どもの引き渡しも念頭に置く＞＜保護者とのコミュニケーションを大切にする＞の8つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、定期的に様々な状況を想定した避難訓練を実施したり、職員の研修参加を通して力量向上を図ったりして準備を整えていた。ただし、施設の設定面において不安を感じている施設もあった。配慮を要する子どもについては、保護者との意思疎通を密に行い、子どもの安全を確保していた。

サブカテゴリ	説明・コード
10-1 日常の中で怪我が多い	子どもが日常的に怪我が多いことに関する回答 ・子どもは打撲、捻挫、擦り傷、鼻血など、動いていれば必ず怪我をする (Q-25)
10-2 二次災害を防ぐ	二次災害を防ぐ重要性や工夫に関する回答
10-3 緊急度に応じて病院へ連れて行く	支援員が子どもを病院へ連れて行くことに関する回答 ・前に公園で怪我をしたという連絡が入り、私がその場に行って、その子を連れて病院に連れて行った (Q-18)
10-4 重大な事象は生じていない	マニュアルに記載がないような災害や事故が生じていないことに関する回答 ・（マニュアルに載っていないことが起こったことは）起こったことは無い (N-16)
10-5 災害時の施設の設備に対する不安に関する回答	災害時の備えに不安がある ・トイレは男女兼用で1個しかないで、その点は問題だと思っています。 (O-17) ・何かあれば学校に避難して支援を待つ形になるが、食料や保護者との連絡、そこで何日過ごせるか、いろいろな面で苦慮すると思う (O-19)
10-6 定期的に訓練する	定期的な災害、防犯訓練の実施に関する回答 ・避難訓練するときに、ここで遊んでいる子と違う公園に行っている子のパターンの時は支援員がどうするかとか、色んな状況を考える (P-56)
津波を意識して訓練する	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
不審者訓練をする	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
巻巻に備えて訓練をする	※「10-6 定期的に訓練する」に統合
10-7 研修会で学ぶ機会を設ける	研修機会における防災・防犯対策の力量向上に関する回答 ・何か起こった際の対応方法については、市内の放課後児童クラブの研修会で勉強している (M-4)
10-8 災害時の保護者への子どもの引き渡しも念頭に置く	災害時の保護者への引き渡しを日常的に念頭に置く重要性や工夫に関する回答 ・災害起きた時の児童の引き渡しとか、保護者の連絡体制を【マニュアルの大項目に設定している】 (N-5)
10-9 保護者とのコミュニケーションを大切に	保護者との意思疎通の重要性や意思疎通を図るための取り組みに関する回答 ・ベースメーカーをつけた子は電子レンジに近づかないとか、パソコンや携帯電話はどうかとかを私達で調べて、保護者と共有していた (N-36) ・保護者の方にも子どもの持病だったり、細かいケアと一緒に共有して行きたいということで保護者と支援員との意思の疎通っていうことをやっている (P-15) ・アトピーの子がいたときに、プールについて保護者と確認した (P-51)

11. 《職員の状況》

＜責任者がいる＞＜働ける人が限られる勤務体制＞＜人が入れ替わってしまう＞の3つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6とは異なり、《職員の状況》に関する回答は少なかった。施設の責任者のリーダーシップのもと、災害や事故に対応する体制がとられていた。しかし、十分に対応できるだけの職員がおらず、職員が変わりやすいため、防災・防犯体制の構築と定着

に困難を感じていることが示唆された。

サブカテゴリ	説明・コード
11-1 責任者がいる	不測の事態において最終判断を行う責任者の存在に関する回答 ・ 事故や災害の状況にもよるが、管理者の私が主に対応している (I-15) ・ 事故が重大であればあるほど、管理者の指示を仰ぐようにしている (O-11) ・ 私は施設長をやっているので、判断は、その場で出来る (Q-5) ・ イレギュラーな事が起こったときには、他の職員が【責任を負うのは荷が重すぎる】ため、児童クラブが責任を背負う (Q-12) ・ 管理者が中心となり、職員全員で緊急事態には対応する (R-14)
11-2 状況に応じて人員増員を依頼する	職員の人員増員に関する回答
11-3 専門性が必要な仕事	職員の専門性に関する回答
11-4 人材確保が困難な現状	職員の確保の困難さに関する回答
11-5 キャリアの長い支援員もいる	支援員としてのキャリアの長さに関する回答
11-6 女性だけでは対応が難しい場合がある	女性職員による防災、防犯の限界に関する回答
11-7 働ける人が限られる勤務体制	職員の勤務時間や働ける職員の制約に関する回答 ・ 職員も多くない職場です (R-12)
11-8 人が入れ替わってしまう	職員や関係機関の人事異動に関する回答 ・ 支援員体制も変わりやすいところ (P-26)

12. 《学習支援の状況》

追加調査では＜放課後子ども教室の状況＞のサブカテゴリにのみ、コードを分類した。しかし、放課後子ども教室について回答のあった施設は、教室との連携が十分に図れているわけではなく、周囲の状況に関する回答であった。

サブカテゴリ	説明・コード
12-1 学習への支援状況	児童クラブ内における学習支援に関する回答
12-2 放課後子ども教室の状況	放課後子ども教室の運営や実施状況に関する回答 ・ 土曜日に、学校の空き教室を借りて、地域の運営委員が子ども教室を開き、児童クラブの子どもも遊びに行っているということを聞いたことはある (Q-29)

13. 《現状と課題》

＜マニュアルを作ることが優先されている＞＜特性のある子どもの増加と対応の難しさ＞＜緊急時の備えが難しい＞の3つのサブカテゴリにコードを分類した。

研究6と同様に、発達上の特性のある子どもが社会的に認知され、児童クラブにおいても特性に応じた配慮が求められている一方、これらの配慮については独学で対処している状況であった。また、緊急時に対応できる物理的、人的な備えが不十分であると感じる回答もあった。

サブカテゴリ	説明・コード
13-1 マニュアルを作る ことが優先されて いる	マニュアルを活用する重要性やマニュアルを最低限の水準とすることに関する回答 ・ マニュアルに頼りすぎるのではなく、子どもたちの安全や権利を守るために、工夫していく点が多いにある (R-13)
13-2 特性のある子ども の増加と対応の難 しさ	配慮を要する子どもの理解と支援に関する回答 ・ 配慮を要する子や非言語コミュニケーションに関する本を読んでいる (I-10) ・ アレルギー対応で、エビペの使用などは研修をやるが、もし必要な子が来た場合や医療的ケアが必要な子が来た場合の項目はもっと【マニュアルに】入れないといけないと思っている (N-35) ・ 特別な対応っていうのは、支援が必要な子にに応じて必要 (N-37)
13-3 職員の質の向上と 働く意欲への課題	職員の質の確保に務めるうえでの課題に関する回答
13-4 緊急時の備えが難 しい	緊急時の物理的、人的な備えの不足に関する回答 ・ 支援員が2、3人しかいない場合の対応について苦慮している (N-48) ・ 学校は保健室や養護の先生がおり、対応が出来ると思うが、学童は静養スペースを設けられていない (P-13) ・ 応急処置とかの指導法は分かっているけど、実際に細かく対応出来ると思ったら、正直不安なところがある (P-14)

14. 《行政や研究者への要望》

＜必要なマニュアルのひな型を提示＞＜財源と人材確保と提供＞＜その他＞の3つのサブカテゴリにコードを分類した。

追加調査においては、行政や研究者に対して、事故・災害の予防と対応に関する方針を提示する際、児童クラブの視察を通じて、現状に即した提案をしてほしいという要望が複数あがった。

サブカテゴリ	説明・コード
14-1 自治体主導で学ぶ 機会を確保する必 要性	自治体を中心に研修会等の機会を設けることに関する要望
目安になるものがある とよい	※「14-3 対応方法や判断基準をわかりやすく提示」に統合
14-2 必要なマニュアル のひな型を提示	マニュアルのひな型を提示することに関する要望 ・ マニュアルを作っても正しいかどうかの判断を私達でなくてはいけなくて、それは大変です。(P-63)
14-3 対応方法や判断基 準をわかりやすく 提示	マニュアルにおいて具体的な目安や対応方法を提示することに関する要望
14-4 財源と人材確保と 提供	処遇改善や人材確保に関する要望 ・ 支援員の処遇改善や実態を踏まえた運営、配置基準にして欲しい (I-22)
14-5 その他	上記以外の要望 ・ 施設に応じたマニュアルが必要なので、行政には視察に来てもらいたい (N-53) ・ 現場がどういう場所、どういう保育を行っているかを行政に把握してもらって、対応してもらいたい (N-54) ・ マニュアル等も該当するが、病院等の関係機関との連携するときの手助け(P-62) ・ 子どもの安全を守る場所について、行政と相談しながらやっていきたい (P-64) ・ マニュアルを作るにあたり、相談出来る場所があれば良い (P-68) ・ 怪我の過失の割合など、責任の所在に関して一定の方針がほしい (Q-22)

6（追加）－4．まとめ

7施設の追加調査から得られたコードは、研究6の14カテゴリに分類することができた。サブカテゴリについては、施設数が異なっていたため、分類されないサブカテゴリ、統合可能なサブカテゴリがあった。各コードを14カテゴリに分類可能であったことから、研究6の移転性（transferability）を確認することができた。

追加調査分の7施設では、既存のマニュアルを用いたり、参考にしながら施設の状況に合わせて作成したりしていた。施設の状況としては、市区町村の中心部にあるため、不審者への対策や交通事故の防止を日頃より意識していた。しかしながら、現在のマニュアルにおいて、事故や災害等の全ての範囲を網羅できているわけではないと感じている施設もあった。

マニュアルの活用は、職員間で共通認識するために会議で確認する施設が多かった。活用の効果として、職員間で共通の行動ができ、事故や災害、怪我への円滑な対応につながったと実感していた。マニュアルの効果を最大限にするためには、事故や災害時に瞬時に情報を収集できる簡易マニュアルを掲示し、必要に応じて詳細なマニュアルを参照することが提案されていた。事故や災害時には、小学校や保護者の他に、市役所の担当部署、病院、消防、警察等の関係機関と連携することが多い。簡易マニュアルには、これらの機関の連絡先は必須であろう。さらに、マニュアルを効果的に活用するためには、定期的に見直し修正することが望まれる。だが、見直しが困難な人員配置である施設が多い。よって、モデルケースを示すことで、各施設が実行可能なマニュアルの活用サイクルを提案する必要がある。

研究6と同様に、追加調査の7施設においても、事故を防ぐための予防的取り組みが支援員の創意工夫によって行われていた。具体的には、子どもの衛生行動を習慣付けたり、事故を予防するために遊びの状況判断を育てたり、事故が起きないような室内環境に整えたりすることが一例であ

る。「備えあれば憂いなし」と言われるが、重大事故の予防や災害による被害を最小限に抑えるためにも日頃の準備が重要である。

今後、行政や研究者には施設の状況を視察し、実践例を取りまとめ、各地方の状況に特化したマニュアル指針の提案、各施設との協働による安心安全な空間の創造が求められている。本調査がその一端を担うことができれば幸いである。